

第 182 回
定例探鳥会

日時 : 2002年 2月 10日 (日) 天候 : 曇り
コース : 高来神社 大堂 浅間山 湘南平

今朝は昨日と違いすごく寒い朝となりました、今にも雪が降りそうな天候です歩き出すとコゲラ、シジウカラしばらく行くとエナガが2羽ペアーだろうか?、エナガは2月頃から繁殖を開始するからそうかもしれない、なぜエナガは他のカラ類より早く開始するのだろうか 質問されたがよく分からない。(後日田端さんに調べてもらったら巣作り開始は早いけど抱卵、育雛などは他のカラ類より特に早いわけではなさそうです、餌になるアブラムシが増えると繁殖が本気になってくるようですなぜ巣作りが早いのかはその理由としての仮説はいろいろあるようです、苔で巣を作るので時間もかかることや家族群で長く生活する事なども一因か? などエナガはかなり特殊性がありそうです。)

海が見える見晴台に着いたらびっくり大島がすぐそこに見える、そして利島までハッキリ見える今までこんなハッキリと見えたことあまり記憶がありません、照ヶ崎でほぼ毎日のように観察していた吉田敬一さんの話では年数回あい珍しいよとのことでした、いいものを見る事ができました。

湘南平ではコゲラの雄の頭の側面に出る赤い羽根を参加者全員が観察できました、観察する機会が少ない赤い羽根、かなり長い時間見る事ができ興奮しました。

大好きな湘南平のビンズイは松が無くなってしまってから激減して今日は1羽も観察できませんでした、鳥達の生活できる環境の狭さ、微妙な状態で暮らす鳥達を感じます。

参加者

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 下倉 紘一 | 2. 金子 典芳 |
| 6. 福田 適 | 7. 鈴木 逸子 |
| 11. 入江 一彦 | 12. 茂木 良平 |
| 16. 片倉 暹 | 17. 三山 初子 |
| 21. 古賀 勝秋 | 22. 南 那津子 |
| 26. (岩佐 昌夫) | 27. (斎藤常實) |

参加人数 27名 (敬称略)

- | | | |
|-----------|------------|-------------|
| 3. 小野 肇 | 4. 八木 正 | 5. 鈴野 嘉久 |
| 8. 星野美代子 | 9. 大坂 英樹 | 10. 吉田 宣子 |
| 13. 山田 文則 | 14. 吉田 敬一 | 15. 霜島 淳子 |
| 18. 松下 弓子 | 19. 中村 豪夫 | 20. 清水 哲子 |
| 23. 山下 勝司 | 24. (田端 裕) | 25. (西ヶ谷修一) |

見聞きした鳥

- | | |
|------------|-------------|
| 1. ヒビ | 2. ノスリ |
| 6. アオゲラ | 7. コゲラ |
| 11. ジョウビタキ | 12. アカハラ |
| 16. シジウカラ | 17. メジロ |
| 21. スズメ | 22. ハシブトガラス |

種類数 22種 (ドバトを含む)

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 3. コジュケイ | 4. キジバト | 5. ドバト |
| 8. ヒヨドリ | 9. モズ | 10. ルリビタキ |
| 13. ウグイス | 14. エナガ | 15. ヤマガラ |
| 18. アオジ | 19. カワラヒワ | 20. シメ |

探鳥会レポート

2月の後半はこまたんがお手伝いする探鳥会ラッシュでした。
参加した方からのレポートが届きましたのでご紹介します。

水辺の楽校観察会 (2月17日、相模川)

本日、西ヶ谷さんの呼びかけで水辺の楽校観察会に行ってきました。予想に反して薄日のさす穏やかな日和のなか二十数名が参加、水辺の楽校の完成に尽力している相模川河口を守る会、一般市民数名の他にこまたんからも9名が参加しました。一般市民の参加が少なくちょっと寂しい観察会でした。樹木と起伏のある地域のなかに、川から閉鎖された二つの池と中州のある岸辺の中に散策路が配置された場所です。冬の端境期は隣接のお花畑も小鳥達の格好の餌場になっており水辺の鳥と山野の鳥が見られるなかなかいい場所です。守る会の臼井さん達の尽力で周辺の大きな人圧環境が減少するとこれからが楽しみな水辺の自然環境が形成されると思います。この4月からは平塚博物館主催(兵口さん)で毎月生き物観察会を行う計画もあるそうです。

見聞きした鳥 (31種) :

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ、アオサギ、マガモ、コガモ、カルガモ、ヒ、ノスリ イカルチドリ、セグロカモメ、ユリカモメ、キジバト、ドバト、カワセミ、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、シメズズメ、ムクドリ、ハシブトガラス

ガールスカウト探鳥会 (2月23日、花水川)

今日(2/23)のガールスカウト探鳥会、会報の予定日との違いからこまたん側のメンバーが揃わず(最初3名)どうしようかと思いましたが、最終的には7名となり問題なく探鳥会ができました、ご苦様でした。毎年恒例の「ガールスカウト平塚市連絡会」の2・20・23・50団の4団連合の探鳥会参加者は、ガールスカウト40名程度、指導員(保護者)20名程度、合計60名程度、途中参加者がいたのでまだ多かったようです。

花水橋から平塚大橋まで8:30~10:45までの約2時間をかけゆっくりと穏やかな天気の中、花水川を楽しみました。恒例になったこの探鳥会を何回も参加している子供達や、保護者がこの探鳥会を楽しみにしているようで、私達も楽しい時間を過ごせました。出発の場所ではカワウ、カワセミ、カルガモ、などそこだけでも楽しめるぐらいでした。工事現場を迂回してまた土手に回り戻すのペアーやシメハシボソガラスとハシブトガラスの違いなど普通の鳥に感激したりキジバトの目の輝きに驚いたりいつも私達が忘れかけている初心の気持ちを思い出させてくれます。去年見たパンを早く見たいというので、最終地点の中州のパンポイントへ急ぐ。片倉さんがチェックしてくれたパンが6羽、これでもかというようにまたまた綺麗なカワセミが姿を現し満足満足の探鳥会でした(教える側が満足まずいかな?)。指導員の方でも長く平塚に住んでいても花水川にこんなに鳥がいたのには驚きましたと言っていました。

見聞きした鳥 (32種)

カワウ・コサギ・アオサギ・カイツブリ・マガモ・コガモ・カルガモ・オナガガモ・ヒ・バン・イカルチドリ・イソシギ・セグロカモメ・キジバト・ドバト・カワセミ・ハクセキレイ・セグロセキレイ・ヒヨドリ・モズ・ツグミ・シロハラ・ウグイス・シジュウカラ・ホオジロ・アオジ・カワラヒワ・シメズズメ・ムクドリ・ハシブトガラス・ハシボソガラス

桜ヶ丘幼稚園探鳥会 (2月25日、花水川)

桜ヶ丘幼稚園探鳥会の報告です。先生に最近のお子さんの様子をお聞きしました。最近の子供は脚力が弱くよく転びます。転ぶ時手を使わないので前歯を折ることが多いですね... 這い這いの時間が短かく、早く立ち上がってしまうからではないかと考えられています。家が狭い? あまり這わなくて直く物がある? 立ち上がれるということか。

10時から11時までの短い探鳥会でしたが、ぼかぼか陽気で土手を滑った! 転がったりわざと転んで、にわか先生の気を引くという仕種も見えたりして... 子供達には1時間が限度のようです。これでは幼稚園の先生も大変だあ~。

... われこの年にして正に天使を見たり! 」...

とてもシャイな女の子がいました。いつも一番後ろにいて「さあ~ 覗いてごらん」というまでじっと順番を待っています。ほかの子は片目をつぶって、首をよじてプロミナ-にしがみついて大変な格好です。しかしその子は両目をしっかり開けたまま静かに瞳を近づけるのです。覗こうというよりレンズを見ようとしているみたいです。「ガラスが見えた? 」と聞くと「うん」と言って首を立てに振るだけ。この子が喋ったのはこれだけでした! 天使か妖精を見ているような気がして心が洗われるようだった! 良寛さんの子供好きの心境がすこし判った。

アト科の鳥って?

冬はアト科の鳥がよく見られます。定例探鳥会やカウント調査でもカワラヒワ、ウソ、イカル、シメなどがおなじみの鳥として観察されています。身体はスズメより大きく、色がきれいなものが多いようです。この私たちに身近なアト科の鳥について、雑誌「バーダー」の説明を紹介します。

スズメ目アト科で、スズメより小さいものからムクドリ大くらいのものでいる。現在日本では19種類が観察されているが、このうちのオガサワラマシコは絶滅し、ゴシキヒワは1999年に出版された『日本鳥類目録』第6版(日本鳥学会)では認められていない。どの種もだいたい、飼育鳥のブンチョウによく似た姿形をしていて、嘴が比較的太くてしっかりしており、体全体が丸みを帯びたように見える。

名前の語源は難しいが、アトリは大群でいるところが多く見られることから「集まる鳥」が詰まってアト。また、秋に姿を現すことから「秋の鳥」がアトリになったという説もある。カワラヒワは、川原に住むヒワということ。ヒワとはひ弱なことで、捕まえたりするとすぐに骨が折れたり、死んだりしてしまうからだろう。マヒワは、「一般的なヒワ」という意味で、昔の山野にはほんとうにたくさんいた。ウソは、鳴き声が口笛(口笛を昔はウソといった)のように聞こえることから。イカルは、鳴き声が「イカルコキー」と聞こえることからつけられ、コイカルはイカルによく似ていてひと回り小さいことからコが付いたもの。シメは、越冬期に聞かれる地鳴きの「チー」を「シ」と聞き、それに小鳥という意味の「メ」が付けられたものだと言われている。 Birder (バーダー) 2002年3月号(第16巻3号)より

定例探鳥会、定例カウント調査などで観察されているアト科の鳥は次のようなものです。

アト、カワラヒワ、マヒワ、ベニマシコ、ウソ、コイカル、イカル、シメ

いずれも年によって飛来数の変動が大きいものが多いようです。その代わりに比較的大きな群れとなるものも多く、現れたときにはじっくりと見ることができ、楽しみな鳥です。この冬は、マヒワ、シメの数が多いようです。

鳥 報

レンジャク情報

今年もレンジャクが飛来する季節がやってきました。早速情報が届いています(3/3 現在)。

大磯町・虫窪 ㄨ 寺のヤドリギ

2月22日、16:55... 1羽のレンジャクが夕日に向かって飛んでいた。これが初認です。

2月25日、16:57... 遠くの梢に2羽がとまっていた。

2月26日、10:55... 2羽のヒレンジャクがヤドリギにとまり、プリプリにみのった実を夢中で食べる。しばらくして粘張のある糞をトローリとした。食べた後休んだり1時間くらいヤドリギにいた。

今のところ虫窪以外からの情報はありません。観察されている最大数は6羽です。

吉沢・土屋・鷹取山

3月2日の吉沢・土屋の定例カウント調査では、ウグイス、シジュウカラ、ヤマガラ、ホオジロ、カワラヒワ、ビバリノさえずりが聞かれ、ポカポカとした気温とともにすっか春を感じました。鳥たちの行動を見ても、ペアで一緒にいるものが多く、エナガの巣材運びやムクドリ相互羽づくろいなどが観察され、繁殖期が近いことがわかります。作成途中のエナガの巣を見ることもできました。

マヒワ... 吉沢、鷹取山で20~30羽や50羽位の群れがよく見られている。3月2日にも約70羽の群れが、サクラやスギの花芽を食べていた。

イカル... 3月2日、2羽がサクラの木にとまっていた。このところこまたんメンバーの餌台にも観察されておらず、久しぶりに出遭いました。

メジロ... 3月2日、約60羽の大群。吉沢の池の側の10本くらいのウメに次々と飛来する。冬の間の混群でも、こんなに多数の群れを見ることはありません。

ウソ... 2月19日、吉沢。ペアがサクラの新芽を貪るように食べていた。

茅ヶ崎海岸(漁港付近)

2月15日にミユビシギ、ヒロードキンクロ、アカエリカイツブリが観察された。

お知らせ】

定例カウント調査

吉沢 松岩寺 & 土屋 遠藤原 2002年4月6日(土)

生沢 鷹取山 2002年4月13日(土)

午前6時に高麗ハイツ隣の駐車場に集合。12時頃に集合場所に戻ります。雨天中止。

4月から集合時間が変わります。参加される方はお間違えのないようにお願いします。

連絡先：岩佐 昌夫 0463-55-6142 内山 規矩雄 0463-33-4322 金子 典芳 0463-32-5583

次回の定例探鳥会は2002年4月14日(日)です。午前7時30分 高来神社に集合。

緑鳩(アオバト) 第181号 / 3月号 発行所 :こまたん

斎藤 常實 0467-51-3543

岩佐 昌夫 0463-55-6142

こまたんホームページアドレス <http://www2u.biglobe.ne.jp/~komatan/>

日本野鳥の会神奈川支部ホームページ <http://www.mmjp.or.jp/wbsj-k/>